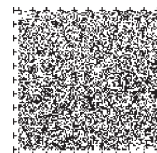


〔研究所情報〕

## 平成21年度研究所 オープンハウス開催報告



平成21年12月11日（金）の10時から、当センター研究所において、オープンハウス〔研究所一般公開〕を開催しました。

この研究所オープンハウスは、多くの方々に当研究所の取り組みと役割についてご理解いただくとともに、来場された方々からのいろいろなご意見を研究に反映することで、より良いリハビリテーションの推進につなげることを目的とし、本年度で4回目の開催となりました。

当日は、あいにくの悪天候にもかかわらず、昨年を上回る205名の方が来場され、研究所の各部が日頃進めている研究についてのパネル展示や開発・活

用機器などの紹介を熱心に見学されていました。

ご来場いただいた皆様からのご意見などをもとに、研究所では、より一層リハビリテーション支援技術、福祉機器の研究開発、社会システムに関する研究及び発達障害に関する情報提供に努めてまいります。

以下、当日の各部の展示内容などを紹介します。なお、展示内容の詳細は以下のURLにてご覧いただくことができます。ぜひご参照ください。

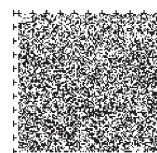
<http://www.rehab.go.jp/ri/event/2009openhouse.html>

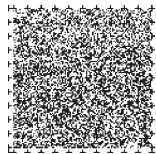
### 運動機能系障害研究部

運動機能系障害研究部では研究所1階の動作解析室を中心に展示を行い、来場された方々への説明を行いました。例年とは異なる試みとして、今年度は部局の研究内容を紹介するビデオを作製し、これを実験室で上映しました。運動機能系障害研究部の活動を「新しいリハビリテーション；ニューロリハビリテーションに関する研究」と「日常生活を送る上で欠かせない、動作や姿勢に関する研究」の2つの枠で整理し研究内容の説明と実際の実験風景の映像を紹介しました。動画を見ていただくことで少しでも研究内容に対する具体的なイメージを持っていただくことができたのではないかと思います。



運動機能系障害研究部（研究内容の紹介ビデオ上映）





### 感覚機能系障害研究部

感覚機能系障害研究部では、「ブレイン・マシン・インターフェイス（BMI）を用いた環境制御システムの開発」、「脳を測るとわかる、ことばの発達」、「手話言語の電子辞書」の3つのテーマで展示を行いました。研究紹介のパネル展示に加えて、電子辞書活用の実演、BMIによる機器操作の様子をビデオ放映するなど、わかりやすい展示になるよう心がけました。障害者とそのご家族の方の来場も多く「脳波による家電制御や文字の入力を実際に試してみたいが、いつ頃実用化するのか?」「手話言語の電子辞書は、どこで入手できるのか?」といった質問もあり、切実な想いと期待を肌で感じました。



感覚機能系障害研究部（展示会場の様子）

### 福祉機器開発部

福祉機器開発部では、「認知症のある人の福祉機器展示館」、「電動車いすシミュレータ」、「6点入力式メモ装置」、「文字保存機能付き透明文字盤システム」、「携帯電話を利用した自発的行動の支援」、「座位保持装置の強度」の6つのテーマに関する展示を行いました。

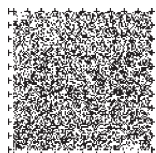
電動車いすシミュレータは、はじめて電動車いすに乗る人に対して、各種の入力装置の適合や操作練習に使用されています。オープンハウスでも、一部の参加者に実際にシミュレータを体験していただきました。

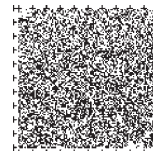
また、認知症のある人の福祉機器展示館では、アラーム付き葉いれ、心理セラピー人形、探し物発見器など、国内外の認知症のある人の生活を支援する機器を展示しました。

展示館だけでも、75名の方が来場され、探し物発見器を見て、「自分にも必要だと」と話される方までおられました。



福祉機器開発部（電動車いすシミュレータ）





### 障害工学研究部

障害工学研究として、①網膜色素変性症の原因遺伝子探索、②生体インターフェース材料の開発研究、③認知障害者を支援するためのPDAソフトと携帯アプリケーション、④動力股義足の開発研究の展示を行いました。当日は残念ながら天候に恵まれませんでした。午前中から障害当事者、看護師、メーカー企業等、合計205名の方々が来場され、当事者や看護側からのご評価や一般の方からの熱心なご意見をいただきました。実際に③の認知障害者支援携帯アプリケーションをダウンロードされる方もおられました。また、股義足研究に関して装具研究に展開するうえで、目から鱗が落ちるようなご意見をいただくこともでき、非常に意義のあるイベントでした。



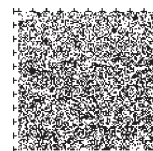
障害工学研究部（展示会場の様子）

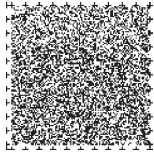
### 障害福祉研究部

障害福祉研究部は、第2研究棟F105（実験室）にて、障害者が主体となる防災事業、マルチメディアDAISYなど7つの研究成果について、パネル展示とDAISYの実演を行いました。紹介した研究は幅広いものでしたが、障害のある方のご家族や、障害福祉に関連する分野の専門職者、研究職の方に加えて、エンジニア、病院職員、リハ専門職、視察の方々が見学に来られ、研究員の説明に熱心に耳を傾けていただきました。来場者にはホームページをご覧になって遠方から参加された方もおり、展示場面でDAISYの開発状況や、地域のサポート状況に関して情報交換が行われ、来場された研究者との短時間の議論も行われました。制度的、質的研究を知っていただく良い機会となりました。



障害福祉研究部（マルチメディアDAISY）





### 補装具製作部

今年度の補装具製作部は、「筋電義手の普及のために」と「より質の高い義肢装具へ向けて」と題して展示を行いました。

「筋電義手の普及のために」では、模擬筋電義手を来場者ご自身の腕に装着し、その仕組みと使い方を理解していただきました。

「より質の高い義肢装具へ向けて」では「ライナー用パッドの製作」「大腿義足歩行における交互昇段法の解析」「義肢装具の快適性に関する研究」の3題について紹介しました。

また会場では、3名の義手・義足ユーザーの方々にご協力をいただき、義足の機能や義手の使い方についての説明がおこなわれました。実際に使用しているユーザーと直接話しをすることができたということで、来場された方々からご好評をいただきました。



補装具製作部（義肢装具利用者による使い方の説明）

### 発達障害情報センター

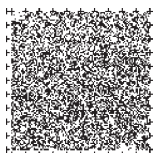
オープンハウス当日、発達障害情報センターの展示室には106名の方が来場されました。発達障害情報センターでは、展示企画として、パンフレットの配布、参考図書の展示、発達障害情報センターホームページの閲覧体験、発達障害関連のDVDの上映を行いました。最も人気のあった企画は、参考図書の展示であり、多くの方が興味をもたれていました。今回は15冊の紹介でしたので、次回は参考図書の紹介の規模を拡大していこうと考えております。また、発達障害関連のDVDも多くの方に見ていただくことができました。2010年1月にはホームページもリニューアルされ、発達障害に関するコンテンツの拡充を図っていきます。来年度も多くの方に足を運んで頂けるよう、企画を充実させていき

ます。

URL <http://www.rehab.go.jp/ddis/index.html>

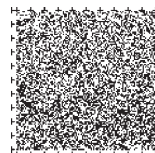


発達障害情報センター（展示会場の様子）



〔学院情報〕

## 「リハビリテーション看護研修会」 に参加して



病院 2F病棟 篠崎 菜穂子

平成21年10月27日から10月30日までの4日間リハビリテーション看護研修会に参加する機会を頂き受講しました。今年度のテーマは「障害と看護」でした。講義の内容は、当センターの広報ビデオに始まり、厚生労働省障害福祉専門官から「障害福祉の動向」、当センター江藤文夫更生訓練所長から「高次脳機能障害の病態とリハビリテーション」、中島八十一感覚機能系障害研究部長から「高次脳機能障害と普及事業について」の各講義、また諸講師の方々より「障害とリハビリテーション看護」、「在宅への支援」、「認知症の医学的理解」、「認知症の看護」、「高次脳機能障害者の看護」、「発達障害とは」、「摂食・嚥下障害者への援助の実際と口腔ケア」、「臨床における暴力の現状とその対策」、「家族心理教育の実際」などの講義が、演習やグループディスカッションも交えて行われ、大変有意義な研修でした。参加者は全国53の病院・施設から64名の看護師が参加しました。

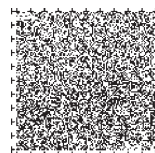
私は当センターに平成5年に就職し、早くも16年目となりました。リハビリテーション看護研修会は当センターにおいて毎年行われる研修で、これまで運営活動に従事したことはありましたが、今回研

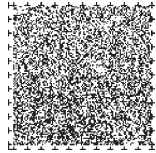
修生としてはじめて参加させていただきました。

講義の中で最も印象に残ったのは、(財)茨城県総合健診協会県立健康プラザ大田仁史先生の講義「在宅への支援～入院中から在宅を見据えて～」でした。

先生は、人は病気になると常に揺れる心を持ち、その心は「強い心」と「弱い心」の間を行ったり来たりしていると述べられ、「強い心」では、自分を客観視できる、将来のことを考えられる、外出し人と会うことができる、自分のしたいことを探せる、役割感を持てる、人を気遣うことができる、と述べられていました。

また、苦しみには「他人に苦しめられる苦しみ」と「自分の中から出てくる苦しみ」の2つの苦しみがあり、「他人に苦しめられる苦しみ」は、①物理的、②制度的、③文化・情報、④意識(心)の4つのバリアから生じること、また、「自分の中から出てくる苦しみ」には、①生活感覚の戸惑い、②社会的孤立と孤独感、③役割感の喪失、④目標の変更ないしは喪失、⑤獲得された無力感、⑥見えない可能性、⑦障害の悪化や再発の不安の7つの心があることを紹介されていました。





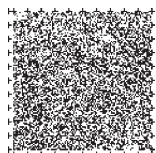
このような心の揺れ動き、病気や怪我で障害を持つことの大変さ（苦しみ）は、実際、入院中のリハビリにおいても、昨日できなかったことが今日出来る様になったかと思えば、次の日にはできなくなっている、一歩進んで二歩下がる、といった形で常に日々の入院生活の中でも見られることです。私達は、このような患者さんを目の前にして、暖かく見守り、励まし、時には叱咤し、患者さんの心の中の声も聴けるようにコミュニケーションを図り観察することが大切であると痛感しました。

また先生の話の中で「孤独の殻を破る仲間の力が必要である」とありました。自分と同じ疾患、障害を持った仲間同士の意見などを聞くことで、現在の自分を知る事ができ、未来の自分を考えることが出来るということです。入院中の患者さん同志での情報交換が有効であることについては私自身も同感です。また、同じ疾患を持つ家族間でのコミュニケーションを取り持つ役割も大切だと思います。実際に病院でも高次脳機能障害のある患者さんの家族に向けた家族学習会も定期的で開催され、障害について

の理解、対応の仕方などの情報交換を行い役立っています。

最後に先生は、「患者さんが元気を取り戻す」ために、1) 自分を客観視できる、2) 将来を考えられる、3) 感心事（興味のある事）を持つ、4) よい仲間がいる、5) 情緒的に支えてくれる人がいる、ことが大切であると話されていました。この5つを兼ね備えられるように私達が仲間作りのお手伝いをし、自分を客観視できるように援助していくことの大切さを知りました。そして患者さんと家族が元気を取り戻していけるような環境を作るため、入院中だけでなく、自宅に帰ってからの生活でも元気に暮らせるよう地域の方との連携をもっともっと働きかけ深めていくことが今後の課題であると思いました。

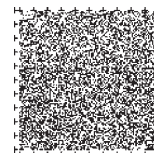
今回4日間の研修に参加して、臨床の看護ではなかなか目が向かない障害福祉行政のことをはじめとして、在宅への支援、疾患の医学的理解、家族心理教育の実際など、多種多様なことを学ぶことができとても有意義な研修でした。今回学んだことを今後の看護の実践に役立てていきたいと思っています。



〔お知らせ〕

## 平成22年度政府予算案決まる

管理部会計課



平成22年度予算編成は、政権交代によって予算編成のプロセスが大きく変更され、予算編成に当たっては、ムダづかいや不要不急な事業を根絶すること等により、マニフェストの工程表に掲げられた「子ども手当」、「高校の実質無償化」等の主要な事項を実現していくため、既存予算についてゼロベースで厳しく優先順位を見直し、できる限り要求段階から積極的な減額を行うこととする等を骨格とした平成22年度予算編成方針が平成21年9月29日に閣議決定され、行政刷新会議における事業仕分けの評価結果を踏まえ、財務省に対する概算要求説明及び折衝において歳出を大胆に見直し、横断的な事業の見直しを徹底し、年末の12月25日に平成22年度予算政府案が閣議決定されました。

今後は、通常国会の審議を経て平成22年度予算として決定されることとなります。

以下、当センターに関する予算案の概要について紹介します。

平成22年度より組織体系の見直しに伴い、光明寮、保養所、知的障害児支援施設は国立障害者リハビリテーションセンターの自立支援局（仮称）として位置付けられることになったため、今までの光明寮等の予算（共通費、運営費及び施設費）についても当センター予算に計上されることになりました。

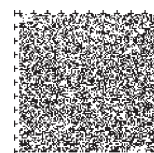
例年にも増して予算編成過程で厳しく査定された

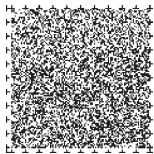
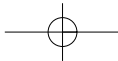
状況の中で決定された予算案において、当センター予算の増額及び新規項目を含む主要事項は、以下のとおりです。

- 「重度障害者受入れのための備品整備」及び「研究機器の計画的な整備経費」について、増額が認められました。
- 厚生労働省が掲げる施策である「発達障害者等支援施策の更なる推進」における一つの事業である「青年期発達障害者の地域生活移行への就労支援に関するモデル事業」は、平成20年度からの継続事業で3年計画の最終年に当たる平成22年度においても事業継続として予算が計上されました。
- 「特別研究費」は、継続の研究を含め8課題が認められました。
- 共通費・運営費においては、「任期付短時間勤務職員給与」、「訓練用自動車更新経費」を含む5つの事項が新規で認められました。

国立障害者リハビリテーションセンターに計上されました予算（案）の概要は別紙のとおりになります。

今後、より一層効率的な予算執行への取り組みが求められることから、職員皆様のご協力をお願いいたします。





## 平成22年度 国立更生援護機関予算（案）の概要

【一般会計】

事 項	21年度 予算額 A	22年度 予算（案） B	差引額 B-A	主 要 事 項
			(4.0%)	
(組織) 国立更生援護機関…①	8,283,433	8,618,899	335,466	
国立障害者リハビリテーションセンター	8,161,590	7,961,796	▲199,794	
(項) 国立更生援護機関共通費	5,976,783	5,809,690	▲167,093	〈リハセンター〉
(項) 国立更生援護所運営費	2,184,807	2,152,106	▲32,701	① 任期付短時間勤務職員給与 16,234 2 重度障害者受入れのための備品整備 13,935 ③ 訓練用自動車更新経費 6,371 4 青年期発達障害者の地域移行への支援に関する事業 39,369 ⑤ 非常勤職員の処遇改善（通勤手当） 2,376 6 特別研究費（8 課題） 141,040 7 研究機器の計画的な整備経費 49,665 ⑧ 外国旅費 953 ⑨ リハセンターを核とする新たな体制構築に要する旅費 824 ※ 番号を○で囲んでいるものは、新規事項
				〈神戸〉
				10 就労支援環境整備 4,267
				〈伊東〉
				11 耐震改修工事に伴う経費 8,514
				12 スロープ式車椅子移動車更新経費 1,393
				〈別府〉
				13 運転能力判定用運転適正検査装置 16,070
				14 インドネシア人介護福祉士候補者受入事業 8,416
(項) 国立更生援護施設費	121,843	657,103	(439.3%) 535,260	〈リハセンター〉
				1 病院本館及び本館建替工事（国庫債務） 483,884
				2 宿舍棟西アスベスト除去工事 30,261
				3 宿舍棟東アスベスト除去工事 29,537
				4 クリーニング訓練室アスベスト除去工事 2,327
				〈神戸〉
				5 照明器具交換工事 6,439
				〈伊東〉
				6 職員宿舍耐震改修工事 31,591
				〈秩父〉
				7 処遇技術開発棟改修工事 73,064

注1）組織体系の見直しに伴い、平成22年度から、光明寮、保養所、知的障害児支援施設は国立障害者リハビリテーションセンターの自立支援局（仮称）として位置付けられるため、共通費、運営費及び施設費については、国立障害者リハビリテーションセンターに計上（児童自立支援施設を除く）。

